



農林事務所管内の動き



1 福岡農林事務所管内

2 朝倉農林事務所管内

3 八幡農林事務所管内

4 飯塚農林事務所管内

5 筑後農林事務所管内

6 行橋農林事務所管内



福岡農林事務所管内

■ 農業

- ・令和7年8月9日から大雨により被災した管内の農地・農業用施設は、12月までに国の災害査定が完了し、順次復旧工事に着手しました。福津市のため池では防災機能を高めるため、県内で初めて、災害関連事業により被災部分の復旧に併せた洪水吐※の拡大を行うこととしています。
- ・JAむなかたキャベツ加工部会は、2年度に作付面積0.2ha、部会員7人で活動を開始し、その後、年々生産を拡大した結果、7年度末には約23ha、13人の規模となりました。JAむなかたは高まる加工キャベツの需要に対応した生産を行うため、新基本計画実装・農業構造転換支援事業を活用し、加工用キャベツの貯蔵施設を増設しました。
- ・JA福岡市管内では、夏場の高温による水稻の品質低下対策として、7年に高温耐性品種「恵つくし」が約50ha作付されました。「恵つくし」は高温障害で発生する白未熟粒の発生が少ないという特性を持ち、さらに耐病性が高く、いもち病の発生が少ないことから、7年産では約9割の「恵つくし」が1等に格付けされました。この結果を受け、8年産では「恵つくし」の作付面積を大幅に拡大する見込みです。
- ・7年10月に北海道で開催された第16回全日本ホルスタイン共進会に、県代表として小島興人氏（糸島市）、中村毅氏（福岡市）、松永慎也氏（糸島市）、挟間祐一氏（糸島市）の飼養牛計4頭が出品され、中村氏が第10部1等賞を受賞したほか、各出品部において入賞を果たしました。
- ・7年度農業委員会等表彰において、篠栗町農業委員会会長である鷹巣礼子氏が長年の地域農業への貢献や女性参画の先進的リーダーシップの実績等を評価され、農林水産大臣賞を受賞しました。

※洪水吐：大雨時に水が堤体を乗り越えて流れないように、水を安全に流下させるための施設。

地域のトピック

○ 清水陽介氏（宗像市）が第53回全国豆類経営改善共励会（家族経営の部）において全国農業協同組合中央会会長賞を受賞

- ・清水氏は常時雇用1人を含めた家族経営で、水稻・麦・大豆及び加工キャベツの複合経営を行っており、省力・低コスト化による安定生産を図るとともに、地域の消費者とも積極的に交流しています。
- ・大豆作では、部分浅耕一工程播種※の導入や徹底した雑草防除、適切な水管理により、直近3か年の平均収量164kg/10a（県平均138kg/10a）を達成するなど、高収量・安定生産を実現しています。
- ・これらの取組や実績が評価され、令和6年度福岡県大豆作経営改善共進会（農家の部）において最優秀賞である福岡県知事賞を受賞し、九州ブロック代表として推薦され、今回の受賞に至りました。

※部分浅耕一工程播種：県が開発した、一工程で耕起・播種を行う技術。



全国共励会表彰式



受賞した清水氏（写真左）

■ 林業

- ・森林経営計画制度※に基づき、申請者から市町村へ提出される計画については、認定事務や事業報告などに際して、多くの帳簿を作成する必要があり、市町村職員にとって大きな事務負担となっていました。そこで、県では自動的に帳簿を作成できるツールを開発し、各市町村へ配布することで、市町村職員の事務作業の効率化を図りました。
- ・林業の労働災害を防止するため、福岡県広域森林組合の福岡西支店及び南支店において、令和7年11月に、労働安全講習会を開催し、関係者約80人が参加しました。当日は、実際の災害事例を交えた講習により、作業員自身が新たな気づきを得られ、安全意識の向上が図られたことで、今後の労働災害の減少が期待されます。
- ・松くい虫防除対策として、ドローンを用いた松枯れ被害木の調査手法とそのメリットに関する研修を、市町及び国の職員並びに森林組合等の防除実施者を対象に実施しました。また、糸島市においてドローンによる調査の実証試験を実施しました。ドローンの活用が今後の松くい虫防除対策の一助となることが期待されます。
- ・「ワンヘルスの森 四王寺」（県立四王寺県民の森）において、約3haの間伐と、イロハモミジやヤマザクラといった広葉樹の植栽を行いました。この取組は、民間企業による「日本森林再生応援プロジェクト」の一環として、実施したものです。
- ・7年8月9日から的大雨により、管内北部に位置する古賀市及び宗像市大島の2か所で林地被害が発生しました。現在、災害関連緊急治山事業により、速やかに復旧を進めているところです。

※森林経営計画制度：森林所有者や森林の経営の委託を受けた者が、自ら森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する5年を1期とする計画。

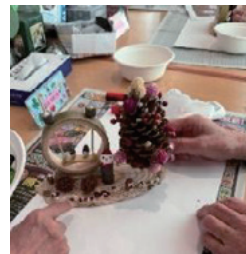
地域のトピック

○ ネイチャークラフトの制作を通し、森林の大切さを広める

- ・県では、森林を社会全体で守り育てる気運の向上を図るため、福岡県森林環境税を活用した「福岡県森林づくり活動公募事業」により、ボランティア団体やNPOなどが、自ら企画・立案し、実行する森林の整備や森林環境教育といった活動を支援しています。
- ・「ふくおか森林インストラクター会」では、令和7年度にこの事業を活用し、デイサービス施設の利用者に、ドングリや木の枝などを使ったネイチャークラフトの制作を通じて、森林の大切さを伝えました。
- ・参加者は工夫をこらしながら作品を制作したほか、福岡県森林環境税の仕組みを学びました。



福岡県森林環境税の説明



制作した作品
(クリスマス飾り)

■ 農業

- ・ J A くるめ青梗菜部会^{ちんげんさい}は、施設葉菜類の新たな複合品目として、夏季の収益確保が期待される青梗菜の栽培を推進した結果、共同出荷開始から6年目となる令和7年度には、生産者6人、出荷量約300 tに増加しました。さらに、全国的に夏季の高温による生理障害や害虫の発生が増加する中、遮熱・遮光資材の積極的な導入などの対策と現地検討会を実施したことで、単価が高い7～9月の生産量を維持し、販売額1億円を達成しました。
- ・ 久留米地域の各 J A いちご部会は、いちごの新規生産者に対し、熟練生産者である「あまおうの匠」による栽培指導を行うとともに、地域合同の学習会を実施し、栽培技術の早期習得と就農定着を支援しました。その結果、5年度から7年度の3か年で15人の新規生産者がいちごの栽培を開始しています。
- ・ 平成29年7月の九州北部豪雨で被災した朝倉市松末地区では、担い手の高齢化や減少が進む中、地域ぐるみで農地や環境を守るため、地域コミュニティ協議会の営農検討部会「チームますえ」で協議を重ねた結果、令和7年12月に地域資源管理団体「一般社団法人ますえの里」を設立しました。今後、畦畔の草刈りや農道・水路の整備等により、担い手の負担軽減を図ることとしています。
- ・ 筑前町水田農業推進協議会は、麦・大豆生産技術向上事業を活用し、大型機械や農業用ドローン、自動操作システム等のスマート農業機械を導入しました。筑前町が設置した、位置情報の精度を高めるための R T K 基準局も活用し、スマート農業による作業の効率化と省力化を図り、麦・大豆の増収を目指します。
- ・ 7年度ふくおか6次化商品セレクションで、「道の駅うきは(うきはの里株式会社)」の「ぷるるんゼリー」が県知事賞を受賞しました。受賞にあたっては、うきは市産の果物をふんだんに使用した果実本来の風味や甘味が高く評価されました。
- ・ 筑後川水系大刀洗川流域(久留米市北野町)では、近年の豪雨による農地やハウスの浸水被害を軽減するため、筑後川への強制排水を可能とする排水機場の整備に着手しました。この排水機場は、10年度からの稼働を目指します。

地域のトピック

○ 松岡吉寛氏^{まつおかよしひろ}(朝倉市)が土地改良事業功労者として旭日双光章を受章

- ・ 両筑土地改良区理事長の松岡氏が、長年にわたる地域農業の発展への貢献が認められ、令和7年秋の叙勲において旭日双光章を受章しました。
- ・ 松岡氏は平成8年に農業法人「ウイング甘木」を設立し、複合経営と多角的な事業展開を通じて、地域農業の発展に尽力しています。
- ・ 両筑土地改良区の理事長就任後は、長年の課題であった農業用水不足問題に対し、補助事業の活用、管理施設の再編、そして小水力発電の有効活用を推進し、その解決に大きく貢献しました。



受章した松岡氏(写真左)

■ 林業

- ・朝倉市では、老朽化した市役所庁舎の建て替えのため新庁舎建築が進められ、令和8年から供用が開始されました。新庁舎では外装や受付カウンターなどに県産木材が活用され、市民が木のぬくもりを感じる空間が創出されています。
- ・朝倉市の林業経営体では、植栽現場の省力化のため、林業用運搬ドローンを導入しました。苗木やシカ侵入防止柵の運搬にドローンを活用することで、作業の負担軽減と効率化が図られ、再生造林の推進に寄与しています。
- ・筑前あさくら椎茸生産組合長の^{てしまひさお}手島久夫氏が、日本特用林産振興会功労者として表彰されました。研修生の受入れによる原木しいたけの栽培技術の普及に取り組むとともに、直売所の運営や町おこしイベントの開催を通して原木しいたけの魅力を広く発信するなど、しいたけの生産振興に貢献した功績が評価されました。
- ・農林事務所では、県立朝倉光陽高校食農科学科の2年生9人に対し、森林・林業の普及のため、しいたけの駒打ちや林業機械の見学などの出前講座を行うとともに、公益財団法人福岡県水源の森基金、浮羽・朝倉森林組合と連携した進路ガイダンスを開催しました。これにより生徒の林業への関心が高まり、就業に繋がることが期待されます。
- ・うきは市では、野生動物による被害防止対策のため、5年度から農地周辺の里山林において、3.25haの除間伐[※]を実施しました。これにより野生動物が身を隠すことができない緩衝地帯が形成され、人と野生動物の棲み分けを、捕獲や侵入防止柵の設置等の鳥獣被害防止対策と一体的に実施することで、農作物等の被害軽減を図っています。

※除間伐：育成する木の成長を妨げる雑木や不良木を取り除く除伐と、混み合った森林で一部の木を伐採し、残した木の成長を促す間伐をまとめて「除間伐」という。

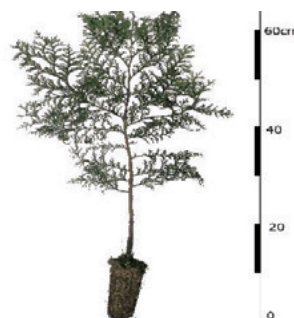
地域のトピック

○ 全国に先駆け、挿し木から育成した少花粉ヒノキ苗木を出荷

- ・県では、平成24年度に少花粉ヒノキの親木を植栽し、10年の歳月をかけて育成してきました。
- ・管内の福岡県樹苗農業協同組合では、この親木から採取した穂木を利用して、挿し木による少花粉ヒノキの苗木づくりに取り組み、令和7年の春から全国に先駆けて、植栽を開始しています。
- ・また、同組合では、国庫事業を活用し、良質な少花粉スギ苗木の増産にも取り組んでおり、少花粉ヒノキやスギ苗木の生産拡大により、花粉の少ない森林への転換を進めています。



少花粉ヒノキの親木



少花粉ヒノキの苗木

■ 農業

- ・令和7年度ふくおか6次化商品セレクションにおいて、北九州市の養鶏農家が作った「濃厚有精卵ぷりん」が特別賞を受賞しました。受賞にあたっては、黄身だけを贅沢に使用した濃厚なコクと旨味が評価されました。また、芦屋町の企業が開発した「サクッと！赤しそ」が福岡県商工会連合会会長賞を受賞しました。受賞にあたっては、軽やかな食感と無添加・無着色による赤しそ本来の豊かな風味や鮮やかな色合いが評価されました。
- ・遠賀町では、露地野菜の経営を行う女性農業者が「女性認定農業者育成事業（新品目導入支援事業）」を活用し、定植機や生産資材を導入することで、新たにキャベツ栽培を開始しました。また、今後5年間の露地野菜の経営拡大・所得増加を目指す経営改善計画を作成し、遠賀町から認定農業者として認定されました。
- ・7年度「高倉びわ生産塾」が開催され、10人の生産塾生が参加しました。生産塾では、びわの主要管理の研修を行うとともに、栽培希望者には園地の斡旋も行いました。この取組により、4人が新たにびわの栽培を開始しました。
- ・遠賀町の高山^{こうやま}ため池では、豪雨や大規模地震に対する安全性を高めるため、4年度から堤体や洪水吐^{こうずいばき}等の改修工事を行い、7年度に工事が完了しました。
- ・7年度福岡県麦作共励会（農家の部）で、中間市^{うえもととし}の植本利雄氏が優秀賞（福岡県知事賞）、特別賞（福岡県精麦工業協同組合理事長賞）を受賞しました。受賞にあたっては、土づくり、排水対策、適期播種等による高収量・高品質生産が評価されました。

地域のトピック

○ ^{みはらたかし}三原高志氏（遠賀町）が旭日単光章を受章

- ・遠賀町の三原氏が令和7年度秋の叙勲において、旭日単光章を受章しました。
- ・同氏は、これまで遠賀町農業委員会会長を12年、生産組合長会会長を10年務めるなど、町の農業分野で重要な役割を担ってきました。
- ・また、福岡県大豆作経営改善共進会で福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会会長賞を受賞するなど、高い技術力で地域農業の発展にも大きく貢献しています。
- ・さらに、農事組合法人を設立し、農作物の生産性向上や地域農業の課題解決に向け、意欲的に取り組んでいます。



旭日単光章を受章した三原氏

■ 林業

- ・農林事務所と北九州市内の大手百貨店が、北九州市小倉南区 頂吉^{かぐめよし}で植樹会と木工教室を開催し、18組 53 人の親子が参加しました。参加者は、植樹会でクヌギの苗木を丁寧に植栽し、森林の働きについて学んだ後、木のおもちやづくりを体験し、森林や木に触れる楽しさを満喫しました。
- ・北九州市森林組合の若手職員 4 人を対象に、林産事業の拡大に向けた研修会を計 4 回実施しました。受講者は研修会を通して森林経営計画制度や造林補助制度の仕組みを理解するとともに、森林所有者への見積書作成に必要な現地調査のスキルなど、実践的な技能を習得しました。
- ・設立 40 周年を迎えた「合馬^{おうま}たけのこ出荷組合」の代表者が服部知事を表敬訪問し、今年の生産状況や記念フェアの開催について報告しました。同組合は、客土[※]による独自の栽培方法と厳格な品質管理により、高品質なブランドたけのこを生産しており、出荷先である関西市場からも高い評価を得ています。
- ・県立八幡中央高校では、地域住民に長年親しまれてきた校内の桜が樹齢約 70 年に達し、老木化していることから、県有施設緑化事業を活用して伐採するとともに、正門から続く桜並木に、高さ 3.5m の桜の苗木を植栽しました。令和 8 年度に創立 110 周年を迎える同校で、新たな桜並木の歴史が始まります。
- ・7 年 8 月 9 日から的大雨では、北九州市、岡垣町、芦屋町の合計 11 か所で林地、治山施設被害が発生しました。加えて、北九州市では 4 か所で林道施設災害が発生しており、現在、8 年度中の復旧に向けた工事が順次進められています。

※客土：筍を収穫する竹林の土壌に、土を10センチから20センチ程度被せること。

地域のトピック

○「三里松原防風保安林保全対策協議会」が緑化功労者表彰で農林水産大臣賞を受賞

- ・「三里松原防風保安林保全対策協議会」が、公益財団法人国土緑化推進機構主催の緑化功労者表彰において、最高位の農林水産大臣賞を受賞しました。これを受けて、協議会の代表者が服部知事を表敬訪問し、受賞の報告を行いました。
- ・三里松原は、全国の「白砂青松百選」に選ばれた景勝地であり、岡垣町のシンボルとなっています。協議会は、平成 4 年の設立以来、松葉かき、植樹、松原の巡視・清掃活動などを継続的に実施し、三里松原防風保安林の健全な育成と維持に尽力されています。
- ・このような 30 年以上の長きに渡って継続した協議会の活動が高く評価され、今回の受賞につながりました。



服部知事を表敬訪問



三里松原防風保安林



協議会の活動（松葉かき）

■ 農業

- ・直鞍・嘉飯桂地域の4市3町、JA及び普及指導センター等の関係機関で構成する飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会が、新規就農者育成のための研修機関に認定され、「飯塚地域アグリスクール（飯塚AS）」を開校しました。飯塚ASでは、就農相談から先進農家での実地研修、各種事業の活用等、関係機関の手厚いサポートを受けることができます。
- ・直鞍地域では、令和5年度から7年度に渡って、専門家派遣によるブランド化検討会の開催や栽培支援に取り組み、「里山レモン」の地域ブランド化、赤かぶ「もものすけ」の関西市場出荷、コストや環境負荷低減に繋がる堆肥利用体系を確立しました。今後は、ブランド品目の知名度向上や安定生産に取り組むこととしています。
- ・田川市、JA及び普及指導センターで構成する「求められる農産物対策協議会」が、サツマイモを新たな特産農作物として産地化するため、5年度から「田川市サツマイモプロジェクト」を開始しました。同プロジェクトでは、地域に適した品種の選定、地元企業等との連携による、ふるさと納税返礼品の創出などに取り組み、消費者からの高い評価を得ています。7年度には新たに1人がサツマイモの生産を開始し、出荷量は前年度から倍増しました。
- ・農林事務所では、有害鳥獣捕獲従事者の確保・育成を図るため、「ハンター育成講習会」を開催しました。講習会では、狩猟免許を取得して間もない若手狩猟者4人が、実践形式でシカの解体処理方法を学び、捕獲した鳥獣を安全で衛生的なジビエ食肉として提供するための知識や技術を習得しました。

地域のトピック

○ 若手生産者が全国青年農業者会議と福岡県花き品評会で農林水産大臣賞を受賞

- ・嘉麻市の辻諒太氏（辻養蜂場株式会社）が、令和7年度全国青年農業者会議のプロジェクト発表で農林水産大臣賞を受賞しました。
- ・辻氏は、ミツバチに寄生して大きな被害をもたらす「ミツバチヘギイタダニ」への対策に取り組み、高い成果を上げたことが評価されました。辻
- ・宮若市の安田一平氏（有限会社グリーンハート安田花卉）が、7年度福岡県花き品評会（産物の部）において、サンシュユを出品し農林水産大臣賞を受賞しました。
- ・サンシュユは赤い実が特徴的な枝物で、受賞品は枝ぶりと実の付き方が良く、実に傷一つない点が高く評価されました。



受賞した辻氏



出品したサンシュユ

■ 林業

- ・添田町及び川崎町の荒廃森林整備事業（広葉樹植栽：8.9ha）では、林業用運搬ドローンにより、シカ防除資材や苗木が運搬されました。こうした作業方法は、作業員の労働負荷の軽減及び作業の効率化が図られるため、林業従事者の高齢化や労働力不足といった課題解決の一助となることが期待されます。
- ・田川地区で木工品の加工や農林産物の生産加工等を行っている「ローカルズ 55.LLP」が、福岡県林業研究グループ連合会に加入しました。研修の受講や他の林業研究グループとの情報交換により、新たな林業技術の習得や情報収集を行い、グループ活動の活発化が図られ、地域林業の振興に貢献することが期待されます。
- ・筑豊地区森林・林業推進協議会が、資源活用研究センターと共同で、花粉が少なく成長や材質も優れた「スギ特定苗木」の成長試験地を飯塚市に設置しました。試験地では「県八女6号」のほか3品種を植栽し、今後品種別の成長特性を積極的に調査します。
- ・治山施設の長寿命化対策として、管内9施設において、施設の維持管理・修繕等の方針や取組内容に関する個別施設計画に基づき、令和3年度より、優先度の高い4施設で修繕を実施してきました。7年度は新たに飯塚市建花寺地区で治山施設の補強工事を実施しました。
- ・直方市では、シカやイノシシなどの野生動物による農作物の被害防止のため、野生動物緩衝林整備事業を活用して、野生動物が身を隠すことができない、見通しの良い緩衝地帯の設置に着手し、7年度は里山林0.24haの除間伐を行いました。
- ・宮若市の国有林において、福岡森林管理署と労働基準監督署の合同で労働災害防止の安全パトロールを実施しました。搬出間伐の現場で作業者に対し、重大事故の事例紹介による注意喚起、防護服などの安全装備に関する指導を行うことで、作業者の安全意識の向上を図りました。

地域のトピック

○ もりつばきよのり 森坪清則氏（添田町）が黄綬褒章を受章

- ・添田町で菌床しいたけ栽培を行っている森坪氏が、農林業に精励し、他の模範となる事績を有する者を表彰する黄綬褒章を受章しました。
- ・森坪氏は、国産菌床しいたけの統一ブランド「サンマッシュなごみ和」を確立し、全国の菌床しいたけの栽培農家で組織する全国サンマッシュ生産協議会の会長を設立当初から18年務めました。
- ・また、菌床しいたけの効率的な栽培技術を開発し、全国の生産者を訪問して栽培の技術指導を行うなど、後継者の育成にも尽力しています。



受章した森坪氏（写真左）



菌床しいたけ「サンマッシュ和」

■ 農業

- ・旧八女市エリアで実施中であった県営農村総合整備事業八女地区が、11年の歳月と総事業費約25億円をかけ、令和7年度をもって完了しました。本事業では農業用排水路、農道、農業集落排水路の整備を実施し、地域の営農及び農村生活環境の改善に大きく貢献しています。
- ・JA柳川では、産地生産基盤パワーアップ事業により、^{かまちしょうだい}蒲池昭代、東部の2か所のカントリーエレベーターを統合し、新たにJA柳川東部カントリーエレベーターを設置しました。新たな施設は、8年産麦の収穫からの利用開始を予定しています。
- ・みやま市山川町甲田地区では、傾斜が緩やかでかんがい施設も備えた大規模果樹園地26haの造成が進んでいます。12年度の完成を目指して整備を進めており、完成後は、地域ブランドである「山川みかん」を次世代へ継承するとともに、若手農業者を中心とした持続可能なみかん産地の発展が期待されます。
- ・近年、特に海外での健康志向や日本食への関心の高まりを背景に、抹茶の需要が拡大しており、取引単価が高く推移しています。「福岡の八女茶」の生産者は、抹茶の原料となる^{てんちゃ}碾茶の生産拡大に向け、法人経営体を中心とした茶工場の整備に取り組んでいます。
- ・JA福岡大城では、イチゴの炭疽病に対して防除効果の高い雨よけ育苗を推進するため、関係機関と連携した「イチゴ雨よけ育苗プロジェクト」を実施しています。7年度産のイチゴでは、活動の一環で作成した「雨よけ育苗の手引き」を活用した研修会や現地講習会により、実施農家の約3分の2（22戸）で炭疽病の発生が減少しました。
- ・7年度第64回農林水産祭の「女性の活躍」部門において、みやま市の^{とくながじゅんこ}徳永順子氏が、最高位となる内閣総理大臣賞を受賞しました。みやま市農業委員会会長をはじめ様々な役職を務めながら、地域の課題解決に取り組む姿勢が高く評価されました。

地域のトピック

○ ^{ふるかわあきとし}古川明俊氏（八女市）が黄綬褒章を、^{さねもと ふとる}實本 太氏（筑後市）が緑白綬有功章を受章

- ・令和7年秋の褒章において八女市の古川氏が黄綬褒章を受章されました。古川氏は八女地域で初めて茶直売所と喫茶室を併設した法人組織を設立し、碾茶の生産、販売を進めるなど、県内茶生産の先駆けとして今日の産地発展に大きく貢献されています。
- ・7年度農事功績者表彰式において、筑後市の實本氏が緑白綬有功章を受章されました。實本氏は、米と麦の栽培のほか、肉用牛肥育を行っており、自家ブランド牛「船小屋牛」の確立や、農業後継者の育成、栽培条件が悪い農地の活用を行い、耕作放棄地の解消に努めるなど、地域活性化のけん引役として長年にわたり尽力されています。



受章した古川氏（写真左）



受章した實本氏（写真右）

■ 林業

- ・福岡県八女森林組合では、八女市上陽町の主伐地を伐採から植栽まで一体的に行う「一貫作業システム」のモデル地区とし、人力地拵^{じごしら}え※と機械地拵えの比較検証を行いました。今回の検証で、機械地拵えによる省力化やコスト削減効果がしっかりと確認できたことから、今後、他の現場への普及を進めていくこととしています。
- ・八女市産のスギを内外装にふんだんに使用し建築された八女市新庁舎が、令和7年度木材利用推進コンクールで木材利用推進中央協議会会長賞を受賞しました。新庁舎は、かつて城下町として栄えた市の町並みに馴染むよう、町屋の白壁や木格子といったデザインが取り入れられ、景観に調和していることが高く評価されました。
- ・林業労働災害を防止するため、主伐や間伐作業の現場において、労働基準監督署と合同パトロールを行いました。引き続きパトロールを定期的に行い、現場作業員に対して安全な作業方法や安全作業最優先の重要性を指導し、労働災害発生ゼロを目指します。
- ・筑後地区森林・林業推進協議会では、福岡県八女森林組合に体温上昇を感知して危険を知らせるリストバンド型の機器を貸与し、現場作業員の夏の暑さによる熱中症対策を支援しました。

※地拵え：苗木を植えるための準備作業として、伐採跡地の残材や枝等を整理すること。

地域のトピック

○ 森林管理道「室園^{むろぞの}～浦谷^{うらたに}線」開設工事に向けた準備が進む

- ・室園～浦谷線は、八女市上陽町北川内字室園^{きたかわうちあざ}から同市上陽町久木原字浦谷^{くきはらあざ}を結ぶ全長 7,300m、幅員 5.0m の森林管理道です。
- ・県は、開設工事に向けて、令和7年度に全体計画調査及び測量設計を行い、8年度から工事に着手します。
- ・室園～浦谷線の開設により、利用区域内において効率的かつ安定的な森林施業が行われ、地域の林業振興への寄与が期待されます。
- ・また、室園～浦谷線は県道「八女香春線」に繋がる市道と連絡しており、災害時の迂回路として星野地区への交通アクセスが確保されます。



森林管理道「室園～浦谷線」

■ 農業

- ・京築地域では、関係機関が連携して年1回開催していた「就農相談会 in 京築」による就農相談体制を、就農希望者からの相談に対し、オンラインを活用して関係機関がワンストップで随時対応できる体制に見直しました。ワンストップ相談窓口を利用した就農希望者からは、「関係機関それぞれに相談に行く手間が省け、ありがたい」といった評価を得ています。
- ・京築普及指導センターは、管内が県内最大の産地であるケイトウ※¹の収穫作業を省力化するため、ヘッジトリマー※²を用いた一斉収穫技術を確立しました。加えて、機械メーカーやJ Aと連携して、野菜用半自動移植機を改良した機械定植も実用化し、定植や収穫といった高温時の作業負担の軽減を図っています。
- ・豊前ジビエセンターの「豊前ジビエウインナーセット」が、「ふくおか6次化商品セレクション」で福岡県議会議長賞を受賞しました。今回の受賞は、鳥獣被害防止のために捕獲したイノシシ・シカを活用する地域資源の有効活用と解体から精肉加工の一貫体制が高く評価されたものです。
- ・防災重点農業用ため池に指定されている築上町の「岩本の1池」が、老朽化に伴う漏水の防止や地震・洪水時に堤体の安全性を確保する防災事業に新規採択されました。今後、ため池の決壊を防ぐ防災工事を実施していく予定です。

※¹ ケイトウ：主に夏から秋に咲き仏花に多く用いられる、赤、ピンク、黄等の花色の花。

※² ヘッジトリマー：生垣や庭木の枝葉を刈り込むための電気工具。

地域のトピック

○ 築上町の粃殻再資源化施設が稼働開始

- ・全国農業協同組合連合会福岡県本部が、築城カントリーエレベーター（築上町）の敷地内に、県内で初めて粃殻再資源化施設を整備し、令和7年度から稼働を開始しました。
- ・現在、カントリーエレベーターで副産物として発生する粃殻は、利用する畜産農家及び園芸農家の減少に伴い、未活用分が増加し有償で処分しています。
- ・今回整備された施設では、珪酸（シリカ）を20%含む粃殻を一定の温度で燃焼することで「植物性シリカ」を90%以上含む灰を取り出すことができます。
- ・シリカは、化粧品、ガラス、乾燥剤、半導体等に幅広く利用されており、利用業者はSDGsの観点において、シリカを抽出する際に莫大な電力を必要とする「鉱物性シリカ」から、焼却及び溶液処理で灰から容易に抽出できる「植物性シリカ」への移行を進めています。
- ・このため、当該施設の稼働により、地域資源として余剰粃殻の有効活用の促進が期待されます。



粃殻再資源化施設全景



粃殻再資源化焼却施設燃焼プラント

■ 林業

- ・ 築上町では、イノシシやシカからの農作物被害を防止するため、野生動物緩衝林整備事業を活用し、森林と農地の間に緩衝地帯を確保する里山林の除伐^{※1}に着手しました。緩衝地帯設置後も捕獲対策、侵入防止対策、維持管理作業を一体的に実施し、被害低減を図ります。
- ・ 令和7年11月、築上町図書館「^{きず}築きのもり」で第76回福岡県植樹祭が開催され、服部知事、蔵内県議会議長の出席のもと、式典と記念植樹が行われました。緑化推進等の顕著な功績を称える「福岡県緑化功労者表彰」では、おおくす緑の少年団（上城井小学校）が県知事賞を受賞しました。
- ・ 「京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）」では、地元大学の学生から「京築ヒノキ」を活用した「京築ヒノキフレーム」のデザインアイデアを募集し、特に優れたアイデアを実際に作品として製作しました。今後は作品の展示を通じて、京築ヒノキのPRを行います。
- ・ 上毛町の製材工場が県の補助事業を活用し、最新の製材機、木材乾燥機、モルダー^{※2}などを導入しました。これにより、製材工程の自動化が進み、品質の安定と生産量の拡大が見込まれ、今後、地域の中核的な製材工場としての役割が期待されます。
- ・ 11年度の完成を目指す林道豊前耶馬溪線では、利用区域内に希少な両生類や哺乳類等が生息していることから、スロープ付き集水桝^{※3}や自然植生誘導型緑化工^{※4}など、環境への影響を抑えるための技術を用いた工事を進めています。

※1 除伐：植栽木の生育を妨げる、他の樹木を切り払うとともに不要な枯枝葉を切り落とす作業。

※2 モルダー：乾燥した製材を正確な寸法や形状に削り、表面を滑らかに仕上げるための機械。

※3 スロープ付き集水桝：小動物保護のため桝内部に傾斜を設け自力脱出に配慮した集水桝。

※4 自然植生誘導型緑化工：生態系の保全に配慮し周辺植生種の自然侵入を誘導させ法面緑化を図る工法。

地域のトピック

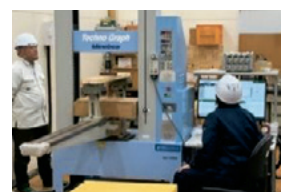
○ ハイブリッド木造ビルの構造材の材料に京築ヒノキが決定

- ・ 近年、ビルなどの非住宅中高層建築物への木材利用の機運が高まっており、国産ヒノキ材の利用が注目されています。
- ・ こうした中、福岡市博多区に建設が予定されている地上8階建てのハイブリッド木造ビルの構造用木材に、「京築ヒノキ」が採用されました。
- ・ 今後、豊築森林組合、資源活用研究センター、集成材メーカーなどが連携し、立木、原木、製材品の各状態で強度試験を行い、最終的にラミナ材[※]として供給される予定です。
- ・ 今回の取組は、ヒノキ材を使用した非住宅中高層木造建築の先導的なモデルケースとなることが期待されます。

※ラミナ材：集成材などの構造用木質材料を製造する際に、接着して使用される薄い板のこと。



ビル全景の模型



ヒノキ材の強度試験